

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's 広場

関連リンク

資料室



HOME | 資料室 | 一般教養 | 自己啓発 | 社会システム論 ①

労働組合

労働者福祉・共済

一般教養

社会保障

労使トラブル法律相談Q&A

労働関係法

経営全般

人間関係とコミュニケーション

ライフプラン

男女共同参画

公務員関係法

日朝の歴史

7つの習慣

中東の歴史

ボランティア活動

環境活動

社会貢献活動

自己啓発

生涯学習

外交・防衛問題

資本論

教育カリキュラム

日本国憲法

社会システム論 ①

社会システムとは、人間社会における相互に補完された組織のことをいいます。よく「システムを変える」とか「システムが悪い」「守りのシステムから攻めのシステムへ」などといいますが、そういう場合のシステムが「社会システム」です。

1. なぜシステム理論が必要か

システムとは、ギリシャ語で「結合したもの」という意味で、機構、制度、組織、体制、方式、系統などをいいますが、ここでは次のように定義します。それは「複数の要素が有機的に関係し合い、相互作用を通して全体としてまとまった機能を発現している要素の集合体」です。

システム理論は、当初は熱力学、生物学、神経生理学、細胞理論、コンピュータ理論等の自然科学分野で研究されていましたが、現座はその一般システム理論からニコラス・ルーマン等によって「社会システム理論」として社会科学の分野で研究されている学際的学問です。

学際学とは、国と国との関係の学問分野を国際学と呼ぶように、学問の壁を取り払った学問のことをいいます。

システム理論が必要な理由は次の三点です。

① 複雑で日々変化する個々の現象を一つ一つ見ていたのでは問題解決にならない。現代の組織は、中央のコントロール室で組織の末端まですべてを管理運営できない。

② 個々の現象、一つ一つの合計や集合が必ずしも全体・全体像にならない。

③ 部分が全体、全体が部分という発想で、目的に合わせて全体像を設計していく必要がある。

また、現代社会をシステム論で考えた場合の問題意識は次のとおりです。

現代の日本社会システムはどう変化してきたのか。現在はどのように機能不全に陥っているのか。これからの社会はどのような社会システムが有効なのか。

例えば、現在の日本型雇用システムの形成、機能、解体、再構築をどうするのか。日本の社会システムの中の学校システム、社会保障システム、交通システム、エネルギー・システム、ライフライン・システム等の日本社会システムの転換と再生・再構築をどのように図っていくのか。また、自然環境システムをどのように再構築していくか。

[社会システム論②](#) ⇒

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

[>>一覧へ戻る](#)

傾聴

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら

📄 サイトマップ 📄 このサイトについて 📄 個人情報保護の取組みについて

🏠 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.